

こどもの命が輝く 平和な未来の為に  
～紡いできた保育の実践と運動の歩みをこれからも～

## 九州合研ニュース No.3



第50回九州保育団体合同研究集会

福岡集会実行委員会

### ★記念講演★

講師 池添素さん

(NPO 法人福祉広場 理事長)



撮影 山田真人

### 『子どものキモチはどこにある？』

～豊かな発達の手ごたえを感じる保育と子育てを考える～

#### ※参加者の声

今回、池添先生のお話を聞いて沢山の気づきを得ることが出来ました。子育てにおいて頭の中では「人と比べないこと」「育つペースが違う」ことは、わかっていたがやっぱり無意識にしまい、子どもに理不尽な対応、態度をしてしまうことがありました。子どもの気持ちと大人の願いは別であること、子どもの一人ひとは違う教科書であり、大人も子どもと一緒に成長して信頼や共感関係を築いていくこと。とても身に沁みました。そして保育園後、車の中や家で「今日は、何したの～？」と聞くようにしていましたが(聞いた方がいいと思っていました)質問はせず、子どもが話したいことをゆっくり聞いて下さいと。正直これは、驚愕でした。さっそく今日から色々聞くのをやめて子どもをやめて子ども達の話したいことをゆっくり聞いて向き合っていこうと思いました。すぐにはすべて変えることは難しいですが、子ども達の意見ややりたい気持ちに今より目を向けて、未来が少しでもよくなれたらと思います。私は、子育ては辛いより楽しいと思うことが多いですが池添先生の話聞いてもっとシンプルに楽しく子ども達が育つための支えをしていこうと思いました。とても素敵なお話をありがとうございました。(福岡県 保護者)

大人は「～しなさい」といい、子どもは「～したい」という。この2つの葛藤、我慢がこの2年間コロナウイルスが流行り多くなったことと思います。我慢させられて我慢する気持ちが育つのではなく、我慢を受け止められることで満足し、我慢を覚えていくということ。子ども自身が宿題を減らしていくためには子どもたちの「～だ」という気持ちを私たちが一つ一つに向き合っていく必要があるのだと知りました。それは決して手遅れではなく適切な支援者がいればいつからでもいいのだということ池添先生のお話を聞いて学びました。これからの保育に活かしていきたいと思うお話ばかりでとても為になりました。ありがとうございました。(福岡県 保育士)

保育は今を生きる子どもたちの今の幸せを作るものである事。その思いを強くしました。満足が前提にないと我慢できなくなり折り合いをつける子になれない。大人の思いと子供の思いのギャップは耳が痛くもあります。子ども自身の育つ力を信じることの大切さを痛感しました。(福岡県)

お話を聞かせていただき、まさに「それぞれ！わかる！わかる！」。「でも、わかってはいるんだけど自分は出来ているかな…」と考えさせられることばかりでした。私も保育士になって十数年たちますが、子どもたちや保護者さんとたくさん向き合ってきて、本当にきちんとわかってあげられていたかな…と、後悔・反省だらけです。でも池添さんの「いつからでもやりなおせる」の言葉を聞いて、とてもほっとしています。「子どもは自分で育っていく力がある」その言葉を胸に刻み、「子どもの今」を大切に、明日からも保育士頑張っていこうと思います。貴重なお話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。

(長崎県 保育士)

保育士として、親としてすごく響く講演でした。自分の中でも、どうしても「〇〇させないといけない」を重視してしまい、子どもの気持ちを大切にできていない場面が、保育でも子育てでもあるなど反省しました。また、「保護者が話しを”したい”と思う保育士」になることの大切さ、親になってとてもわかるような気がしています。保育士として、そんな保育士になって、保護者とより良い関係を築くことで、子どもたちの育ちや保護者の子育てをしっかりとサポートができるようになりたいと感じました！ありがとうございました！

(佐賀県 保育士)



貴重なお話に参加させて頂きありがとうございます。私は1歳児クラスの担任をしているのですが、お話にあった子どもの気持ちの「今」と大人の気持ちの「今」が一致しているのかという話にすごく共感しました。クラスのこどもは15人いるのですが、かみつきなどがあり職員のなかでも緊張感みたいなものを感じ、その中でも子どもはいま抱っこして欲しい、などで甘えてくることがあっても「待っててね」や「あとでね」とついつい言うてしまう事があるなど感じました。また、月齢が高い子は着脱も自分でしたが、ほとんど自分で最後までできるのですが、バタバタしているときなどに「して」と甘えてくるときもあり、自分でしてごらん？と、できることは自分でさせなきゃと思ってしまうなどお話を聞いて日々の保育を振り返り思いました。気付いていながらも中々うまくできないなど自分の保育を見つめなおすきっかけになりました。また、私が保護者との関わりについて悩んだことがあり、保護者を支えるとはなにかを改めて考えることができました。共感関係・信頼関係・情報提供を大事にし、保護者がこの先生と話したい、この先生になら話してもいいかなと思ってもらえるような先生や保育士でありたいと思いました。そのためには、日頃の様子を細めに伝えることや、何気ない会話も保護者とたくさん関わっていき、保育士は、子どもの気持ちに寄り添い遊びを考え発展させることを一番に考え、明日からの保育を頑張ろうと思います。日頃の保育を改めて見直し、貴重なお話を聞くことができ本当によかったです。ありがとうございました。

(福岡県 保育士)

## おまけ…

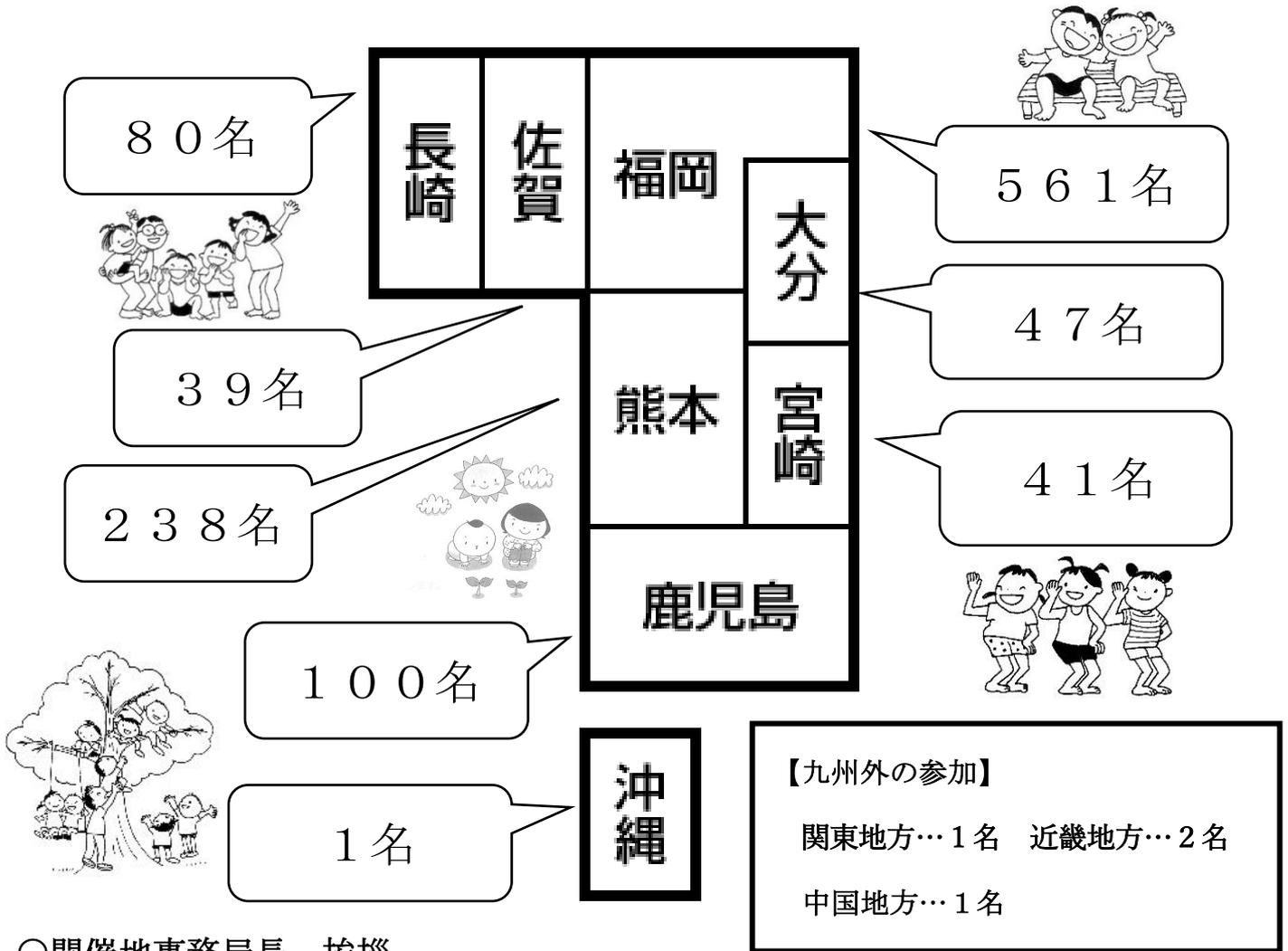


昨日から事務局の皆様と司会者の方は、コロナ感染防止を行いながら、保育センターにおられます。最後まで頑張りましょう！  
(開会式前の写真です。緊張してま～す。)

講座や分科会の感想を集めております。  
こちらのアドレスにメールしてください。  
✉ [boss01@iaa.itkeeper.ne.jp](mailto:boss01@iaa.itkeeper.ne.jp)  
宜しくお願いま～す。



# 九州内外から1111名の参加がありました。



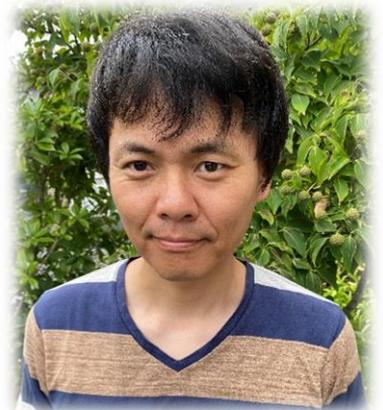
## ○開催地事務局長 挨拶

第50回九州合研福岡集会にご参加のみなさま。こんにちは。開催地実行委員会事務局の中岡です。本集会にご参会いただき誠にありがとうございました。みなさまのご理解とご協力、そして、多大なるご尽力をいただき、2020年で50周年を迎えた九州合研を2年間の延期を経て開催ができたこと、重ねて感謝申し上げます。さて、2年前の実行委員会発足準備会を思い返すと、50回目の九州合研を福岡で開催するというところに、50周年というアニバーサリー感にとってもワクワクしたことと、これまで脈々と受け継がれてきた九州合研を、私たちの世代もその歴史の中であって、次世代へと受け継いでいかなければという、何かとても重要な責任があるのではないかと感じたことを思い出します。

そこで、本集会を開催するにあたり、九州合研の歴史を振り返ると、1979年の第10回集会、その10年後の20回集会是北九州、1999年の30回集会も福岡で第31回全国合研福岡集会と合同で開催されました。九州合研の歴史を振り返り、これからの展望を確認しあうことを10年間という節目で考えた時、10回・20回・30回、そして、今回が福岡開催であったということは、福岡が今後も九州全体の保育運動を拓げていくために重要な役割を担っているのではないかと思います。

そして、今回完全リモートの集会に挑戦する中で、実行委員のみんなが手探りだからこそ、慣例に習うのではなく創り出すことに知恵を出し合い、その中で、お互いのことを知りより関係性が深まっていったことは、今後の福岡の保育を創っていくための大きな財産になったのではないかと思います。参加者のみなさまともリモートであっても、いやリモートであったからこそつながりを深め、そして仲間が拓がっていくような集会になったのではないかと思います。

それでは、次期開催地、鹿児島でもみなさんと、そして、新たな仲間と出会うことをとても楽しみにしています。



開催地事務局長 中岡亘